膵臓がん治療薬のドラッグラグ解消に関する要望書

特定非営利活動法人パンキャンジャパン 理事長 眞島 喜幸

1)) 膵臓がん患者の現状

日本のがん患者は欧米で開発された抗がん剤を多く使用しています。問題は欧米で承認された抗がん剤が日本で使えるまでに何年も待たされることです。このドラッグラグ問題の解消を求め、膵臓がん患者による署名活動を行い、厚生労働省に提出し承認されたのがゲムシタビン、エルロチニブ、フォルフィリノックスです。しかし、承認されるまでにゲムシタビンで 5.1 年、エルロチニブで 5.7 年、フォルフィリノックスで3年かかりました。膵臓がん患者に時間の余裕はありません。

現在、乳がんでは 25剤から30剤の薬剤が使えますが、膵臓がんで使える薬剤は、上記の3剤の他、S1、アブラキサン、オニバイド、ペンブロリズマブ、エヌトレクチニブ等の5剤しかありません。米国で使われる薬剤にはそのほか、シスプラチン、カルボプラチン、ドセテキセル、カペシタビンなどがあり、さらに遺伝子変異にあわせてニボルマブ (MSI-H)、オラパリブ (BRCA2)、ルカパリブ (BRCA1)、トラメチニブ+ダブラフェニブ (BRAF)、クリゾチニブ (ALK)、テムシロリムス (AKT) などの適応外薬も使われています。このように欧米で使われていて、いまだに国内では使えない薬剤がたくさんあります。膵臓がん患者がこれ以上苦しみ続けることのないよう、ドラッグラグ問題の解消を強く要望いたします。

2) 要望の趣旨

- ・ドラッグラグ問題を解消し、欧米の標準治療薬の 1 日でも早い承認をお願いします。
- ・がん遺伝子変異にマッチした分子標的薬(適応外薬を含む)が使える医療体制の構築をお願いします。

氏 名	住 所(都道府県から記入・「〃」や「々」等の省略不可)

- ・署名用紙にご記入された方は、郵送またはファックスしてください。
 - 郵 送 先:〒102-0071 東京都千代田区富士見1-12-1 NPO 法人パンキャンジャパン宛。 ファックス:03-3221-1422
- ・ネット署名もご利用いただけます www.pancan.jp 検索方法:パンキャン 署名運動
- ・中間集約日:2020年11月30日必着でお願いします。署名は、記載の目的以外には使用いたしません。